



平成27年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成27年4月21日(火)に、3年生を対象として、「教科(国語・数学)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。本校では現在、学力向上を重要課題の一つとして取り組んでいるところであり、今回の調査結果につきましては、これまでの取組の成果と課題を検証する視点に立って活用していきます。保護者の皆様には、本校の状況を知っていただき、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科・領域も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

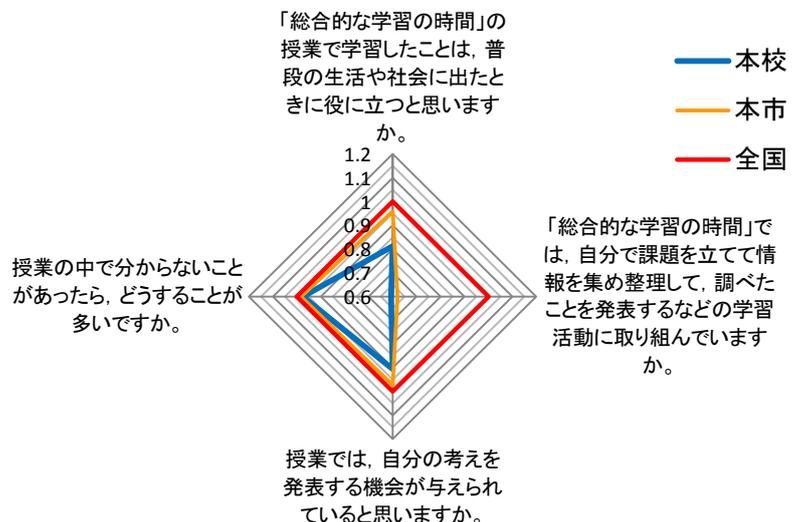
① 学力調査結果と分析

カテゴリー	全国平均との比較	学力調査の分析(傾向や特徴)
国語A	下回っている	わずかではあるが、全国平均正答率を下回った。しかし、全体的に基礎的・基本的な力をつけている。語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う問題や必要に応じて質問しながら聞き取る問題、目的に応じて要旨を捉える問題は正答率が高い。
国語B	下回っている	わずかではあるが、全国平均正答率を下回った。状況に応じて資料を活用して話す問題や目的に応じて文章を要約する問題は、正答率が高い。全国的な傾向と同じく、資料から適切な情報を得て、自分の考えを具体的に書く問題など、書く能力に関する問題の正答率が低い。
数学A	下回っている	全国平均正答率を下回ったが、昨年度より向上し、その差はかなり縮まった。単元を問わず、思考力を要する問題や記述式の問題に対する解答率が低く、正答率も低い。意欲的に課題に取り組む姿勢を身につけさせることが必要である。
数学B	下回っている	全国平均正答率を下回ったが、昨年度より向上し、その差は縮まった。与えられた情報から、必要な情報を選択し、的確に処理する問題は正答率が高い。しかし、思考力を要する問題や記述式の問題に対する課題が多い。
理科	下回っている	全国平均を下回っているが、科学分野、地学分野では上回る問題もあった。これらは日ごろの授業や定期考査において、記述に重点を置くとともに観察・実験など実習を多く取り入れた成果と考える。しかし、電気分野では無解答率が高く課題が多い。

② 学校における学習状況に関する調査結果と分析

- 「話し合う活動」をよく行ったとする割合は、全国平均に比べ低いものの本校においては年々増加している。特に基礎的・基本的な知識や技能の確実な定着に力を入れている中、話し合い等を通して、思考力や判断力、表現力等の育成にも少しずつ目を向け、取り組むようになった結果であると思われる。
- 本校では、「書く」活動に力点を置いた指導の充実を図っている。その結果、「自分の考えを話したり、書いたりする」の割合が増加し、また「感想文や説明文を書くことは難しい」とする割合が、昨年度よりも減少した。これは、国語のA・B問題の正答率の増加にもつながっている。
- 学習への意欲や態度も、本学年においては年々向上している。現在学習している内容が将来に役立つというポジティブな考え、また自分の将来への関心への高まりも見られる。

本校と本市の対全国比(全国を1とする)

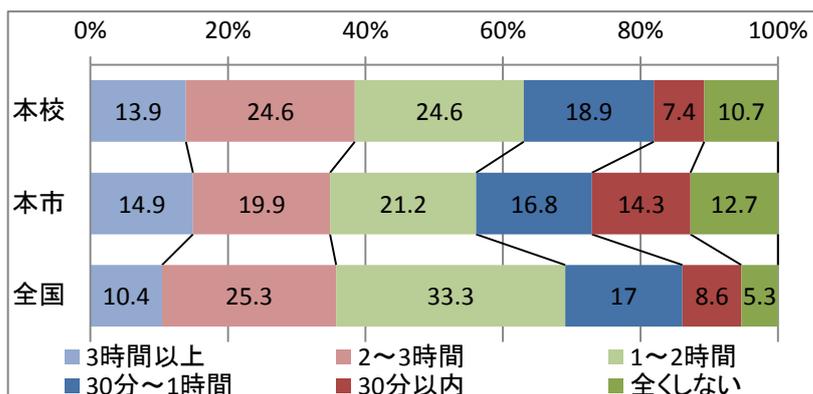


2. 家庭生活習慣等に関する調査結果の概要

① 家庭学習習慣に関する調査結果と分析

学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾や家庭教師含む)

○「読書の時間」は、全国の割合よりも低く、全く読書をしないと答えた割合は全国平均より20%程高い。
 ○家庭での学習(1時間以上)は、昨年度よりも大きく向上し、全国よりも若干低いが生市の平均を上回った。一人一人を大切にしたい指導を通して、自尊感情が高まり、さらに自分の夢や目標実現のための意欲の高まりが、家庭学習時間の増加、定着を促している。しかし、10%を超える生徒が全くしないと答えており、全校で時間のめやすを示したり、家庭学習の具体的な取り組み方を指導する必要がある。



② 生活習慣等に関する調査結果と分析

○家庭でTVやビデオを2時間以上見ている割合は、全国よりも約7%多い。家庭学習は少しずつ定着しつつあるが、依然として学習時間は少ないことがわかる。また、読書については55%程度の者が全くしていない状況で、全国より20%多い。
 ○生活習慣においては、上記のTVやビデオの視聴時間の長さや、毎日朝食を食べる割合の減少から、まだまだ課題がみられる。基本的な生活習慣を確立させるとともに、より一層の家庭学習への取り組みの充実が求められる。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

- ◎ 学力向上に関する校内組織の充実と職員会議や教科部会等の定期的な実施
 - ・校務分掌における教職員で構成する委員会に学力向上推進委員会を組織し、学力向上に係る各種取り組みを提案していく。
 - ・校内研修会を開き、今年度の調査結果の分析を共有し、本校の現状と課題、個々の対策を考える。また、国語や数学以外における教科等においても、今後の学習に生かすための手立てを考える。
 - ・教科部会にて、思考力や判断力・表現力等を育成するための「書く」活動の具体的な方策を検討する。また、基礎的・基本的な知識や技能の確実な定着を図るための授業改善や工夫のポイントについて検討する。
- ◎ 学力向上のための特設時間の実施
 - ・基礎学力向上週間の実施(国語科) 全校生徒を対象に、国語科基礎学力(漢字の読み書き等)の実態テストを行う。その後一週間朝自習の時間を国語の基礎基本の内容を中心に学習する。再度実態テストを行うことで、その成果を見る。
 - ・国語・数学の過去問題、を生徒分印刷し、特に3月を中心に練習問題に取り組む。
 - ・期末考査前一週間は、放課後教室を開き、期末考査の予想問題や基礎基本の補充学習等に取り組む。
 - ・生徒会活動の一環として、朝自習コンクールを実施する。
- ◎ 過去問題・アシストシート、活用力を高めるワーク等の活用
 - ・1学年では、単元末に活用ワークを位置付け、活用する。
 - ・3学期に朝自習において、2学年を対象に全国学力テの過去問題を実施する。
 - ・長期休業日に2学年を対象に、アシストシートを冊子にして宿題として実施する。など
- ◎ 「書く」ことを習慣化
 - ・学習のめあて、まとめをノートに記述する。また、「まとめ」では、自分の気づきや感想・意見等を表現できるようなまとめをさせる。
 - ・各教科にとどまらず、道徳や特別活動の時間に「書く」活動を積極的に位置づけるとともに、自己の意見等を発表したり、説明したりする活動を仕組む。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ◎ 宿題のスタンダード化(時間、学年別・教科別内容)
 - ・自主学習ノートの活用(1日1ページノート)
 - ・家庭学習ハンドブックの活用
 - ・家庭学習強化月間の設定 2月
 - ・冬休み・春休みの宿題に、過去問題やアシストシート、WEB問題を活用
- ◎ 全国学力・学習状況調査の課題と取組等を保護者へ周知
 - ・家庭教育学級や学年懇談会等で、結果と取組を説明し、家庭と連携し協力体制を整える。
 - ・学校だより・学校ホームページの活用